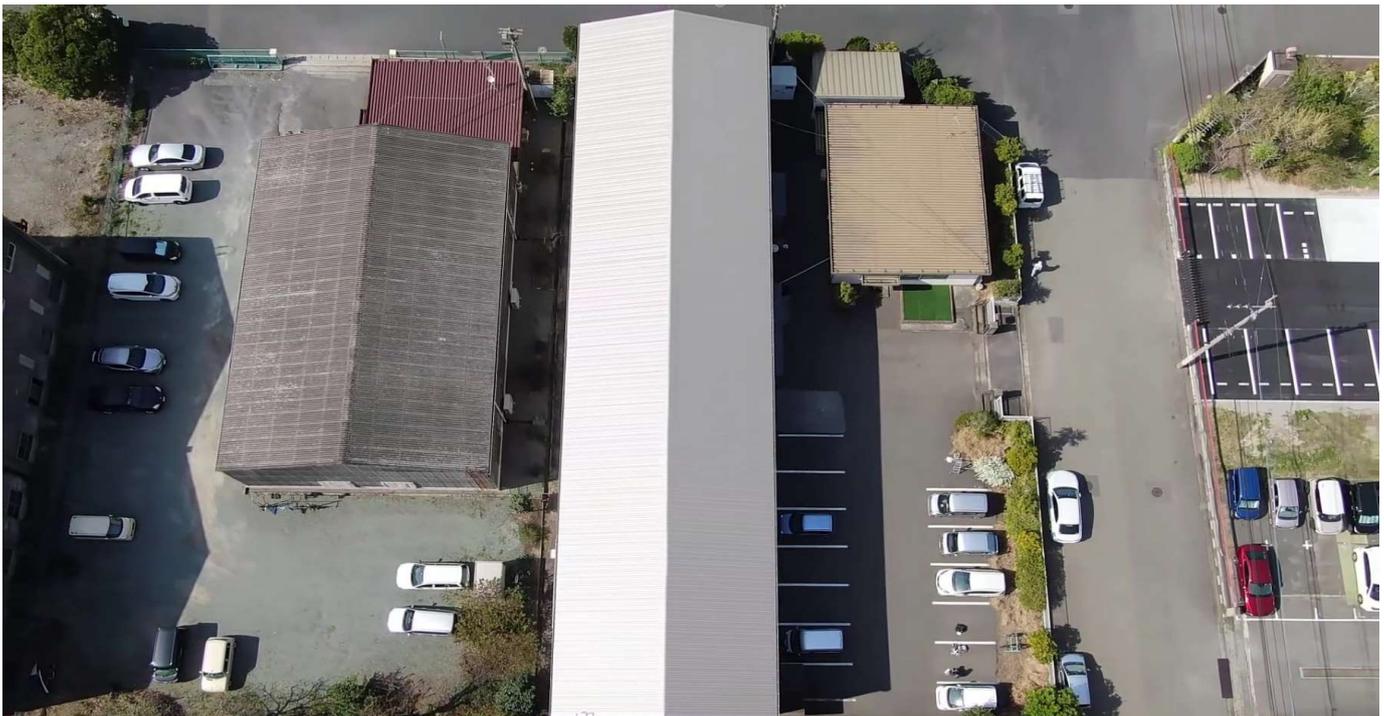




第一鋼業株式会社

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間：2022 年12月21日～ 2023 年12月20日)



九州工场上空から

発行日： 令和6年1月10日

目 次

項 目	ページ
あいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価、取組結果の評価	7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	10
緊急事態対応訓練	11
代表者による全体の評価と見直し・指示	12
これまでの環境活動の紹介	13

□ごあいさつ

環境を考えることは企業の重要な責務です。有害物質を出さない事、リサイクルの輪を断ち切るような製品を出さない事、省資源の考え方などを基本に製品作りをすることが我々に課せられた使命と考えます。この考え方を基本にして製品作りをすすめるとともに環境にやさしい次世代の処理を探求しもの造りに専念いたします。

第一鋼業株式会社

代表取締役社長 妻藤 誠

環境経営方針

<環境経営理念>

第一鋼業株式会社は金属剪断刃物・機械部品の製造及び金属熱処理加工を行う工場としての事業活動を通じて、地球温暖化の緩和に向けた取り組みや様々な環境活動に全員参加で自主的・積極的に取り組むと同時に、環境経営の継続的改善を行います。

<環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 廃棄ロスをなくす等廃棄物の発生抑制とその削減につとめます。
4. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
5. 洗浄剤などの化学薬品の適正管理に努めます。
6. 環境に配慮した生産活動を進めます。
7. 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

制定日： 2017年7月16日

代表取締役社長 妻藤 誠

□組織の概要

更新日：2023年12月20日

- (1) 名称及び代表者名
 第一鋼業株式会社
 代表取締役社長 妻藤 誠
- (2) 所在地
 本 社 大阪市西成区南津守6-3-22
 本社工場 同 上
 九州工場 福岡県北九州市若松区南二島2丁目25番1号
 東京営業所 東京都大田区東六郷3丁目9番9号
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
 責任者 総務部 宇野 眞博 TEL:06-6651-8368
- (4) 事業内容
 金属剪断刃物や機械部品の製造 金属熱処理加工

(5) 事業の規模

売上高 125,933 万円 (2022年度)

	本社	九州工場	東京営業所	合計
従業員	65 名	8 名	3 名	76 名
延べ床面積	4,705 m ²	500 m ²	88 m ²	5,293 m ²

- (6) 事業年度 前年12月21日～12月20日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 第一鋼業株式会社
 対象事業所： 本社・工場、九州工場、東京営業所
 活動： 金属剪断刃物や機械部品の製造 金属熱処理加工

□事業や製品(商品)の紹介



ライナー

スライドウェイ

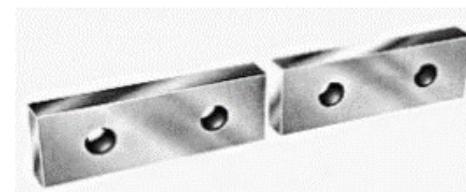
環境処理用粉碎刃



熱間用シャーナイフ

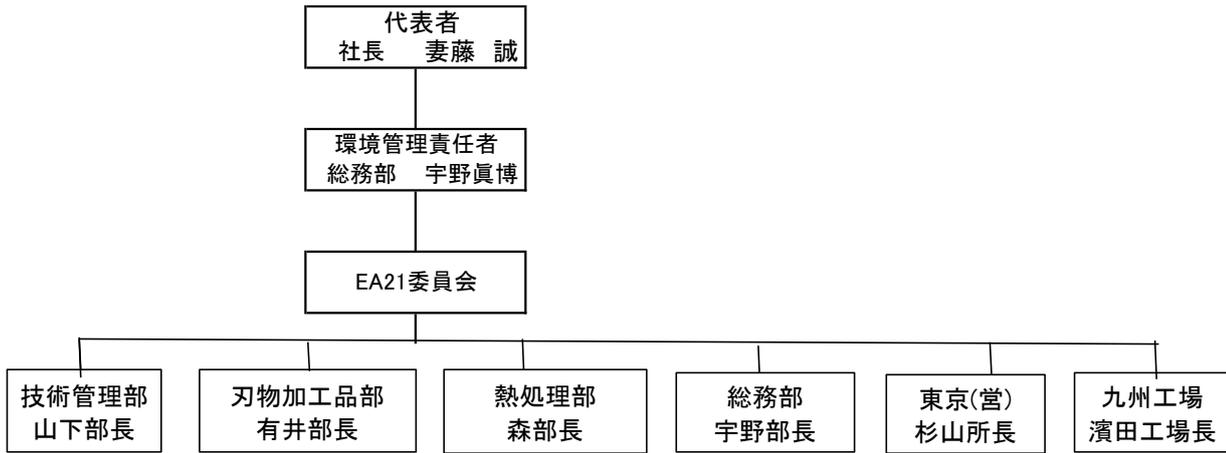


スクラップシャーナイフ



□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2023年12月20日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定・見直し 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直し、指示 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認 環境管理責任者の補佐、EA21委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
EA21委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営計画の審議 環境活動実績の確認・評価
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2017年	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量(1)	kg-CO ₂	3,115,964	2,964,637	3,258,326	3,085,732
廃棄物排出量					
一般廃棄物排出量	kg	2,606	7,310	7,069	7,794
産業廃棄物排出量(2)	kg	73,955	82,329	97,504	101,500
総排水量	m ³	6,536	5,966	5,776	6,072
二酸化炭素排出係数	0.496 kg-CO ₂ /kWh	2015年度関西電力の調整後係数			
(1) 2023年灯油排出量	8,031 kg-CO ₂ /kWh	を含みます			
(2) 2023年有価売却	75,350 kg	を含みます			
(3) 2023年原油換算	1,503 kL				

□環境経営目標及びその実績

2023年度EA21環境目標 (※SDGs取組関連目標も含む)

(1) 電力による二酸化炭素削減	2017年度基準比 2%削減
(2) 都市ガスによる二酸化炭素削減	2017年度基準比 2%削減
(3) 自動車燃料による二酸化炭素削減	2017年度基準比 2%削減
(4) 一般廃棄物の削減(コピー用紙)	2017年度基準比 2%削減
(5) 産業廃棄物の削減	2017年度基準比 2%削減
(6) 水道水の削減	2017年度基準比 2%削減
(7) 洗剤使用量削減	2017年度基準比 2%削減

及び環境に配慮した生産活動(改善、安全衛生、5S、ISO9001、BCP)



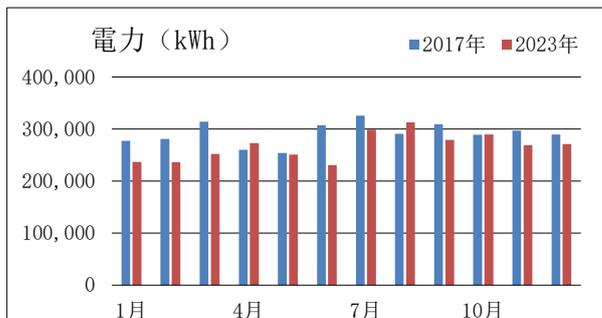
項目	年度	基準値 (基準年)	2023年		評価	2024年 (目標)	2025年 (目標)
			(目標)	(実績)			
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,734,872	1,700,174	1,588,831	○	1,700,174	1,682,825
	基準年度比	2017年	98%	92%		98%	97%
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,313,232	1,286,968	1,422,699	×	1,286,968	1,273,836
	基準年度比	2017年	98%	108%		98%	97%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	57,150	56,007	66,170	×	56,007	55,435
	基準年度比	2017年	98%	116%		98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	3,105,254	3,043,149	3,077,701	×	3,043,149	3,012,096
一般廃棄物の削減(コピー紙)	kg	1,170	1,147	788	○	1,147	1,135
	基準年度比	2017年	98%	67%		98%	97%
産業廃棄物の削減	kg	51,725	50,691	26,150	○	50,691	50,174
	基準年度比	2017年	98%	51%		0.98	0.97
水道水の削減	m ³	6,536	6,405	6,072	○	6,405	6,339
	基準年度比	2017年	98%	93%		98%	97%
洗剤使用量削減	kg	140	137	0	○	137	136
	基準年度比	2017年	98%	0%		98%	97%
環境に配慮した生産活動	行動目標(次項による)						

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組み

数値目標: ○達成 ×未達成

活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価
電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	機械・研削工場の生産の効率化、残業時間前年比5%減少については達成率は95%となったが来期も引き続き計画を見直し時間短縮につとめたい。熱処理は焼入れ炉の充填率、稼働率の監視を続け月単位で分析することは現状の操業ベースにおいて有効であり、引き続き、各焼入れ炉の分析を行う。電力デマンドは目標内にはおさえた。
・空調温度の適正化(冷暖房28/20℃前後での適正)	○	
・機械、研削工場生産の効率化残業時間前年比5%減少	×	
・各エアコンフィルターの清掃点検(省エネパトロール時)	○	
・デマンドオーバー監視(740kw以下)に抑える	○	
・バッテリーフォークリフトのメンテナンス(月次・半年・年次)	○	



取組紹介欄



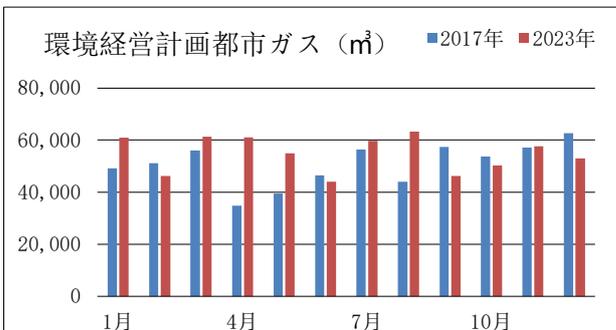
再エネ優先

次年度の取組内容

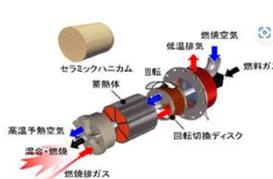
12月からの契約だが次年度に向け購入電力のうち再生可能エネルギーを優先的に使うプランを実施

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	277,576	281,322	314,513	260,267	253,945	307,527	326,080	290,758	309,501	289,336	296,962	289,938
2023年	237,042	236,312	252,247	273,334	251,536	231,122	298,991	313,408	279,213	289,830	268,799	271,455

都市ガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	×	都市ガスについてデマンド監視は電力デマンドと比べると警報が鳴ったときの対処・調整がうまくできるようになってきている。が、まだ対処にムラがある。今後ガス代は翌年の国の補助政策が気になる。使用量削減は生産量及び生産タイミングから未達成だった。省エネバーナー化即すべて解決でなかったが課題発見につながった。さらに効果を向上させる取り組みが必要。
・都市ガスデマンドによる管理(205m3以下)	○	
・機械工場昨年比ガス5%削減	○	
・省エネ法に対応する管理基準の点検表運用	○	
・省エネ法定期報告書、中長期計画書作成	○	



取組紹介欄



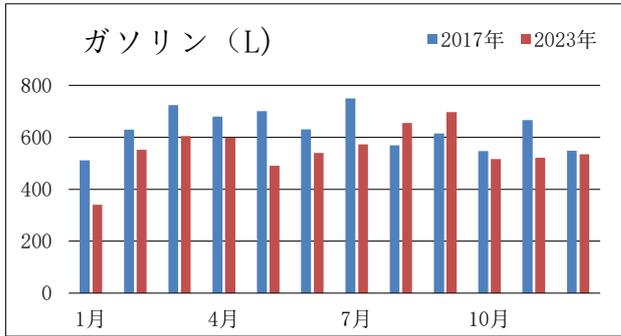
炉は省エネバーナーに更新

次年度の取組内容

既存の省エネバーナーの効率化と低温炉へも展開を検討していく、ガスエネルギー使用量については炉への充填率も大きく影響する。できるだけたくさん充填するのが効果的なのだが、とはいえ納期厳守でもあるので工程を考慮した使用量削減を検討する。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	49,138	51,174	55,962	34,809	39,397	46,445	56,410	43,983	57,311	53,692	57,087	62,570
2023年	60,947	46,186	61,346	61,121	54,946	43,964	59,743	63,258	46,135	50,291	57,692	53,028

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	×	ディーゼル車トラックとガソリンデッキバンと2台数が増えていることから2017年度比では増加となっている。リース満了時に低燃費車の検討とともに引き続き配送の効率化なども検討したい。アイドリングストップは取引先構内において当然のことで、社内でももっと注意して意識してもらえよう啓蒙していく。
・月別売上と運搬費の比率0.5以下を管理していく	△	
・アルコール検査、体調管理、法令順守、無事故、無違反	○	
・ガソリン、軽油の使用量を監視する東京営業所	○	
・アイドリングストップ推進(生産管理課 中谷)	○	



取組紹介欄

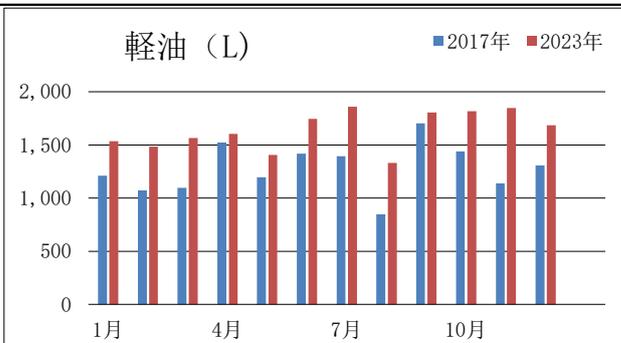


ハイブリット車に更新

次年度の取組内容

営業車はリース満了時に低燃費車の検討とともに引き続き配送の効率化なども検討したい

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	511	629	724	680	700	631	749	569	615	547	666	548
2023年	340	551	604	599	490	539	573	654	697	516	521	535



取組紹介欄



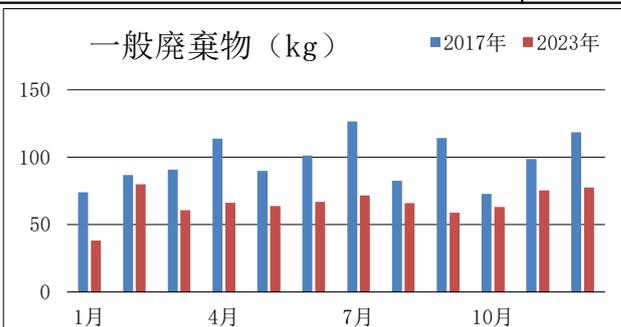
アイドリングストップ運動

次年度の取組内容

2017年当時からすると1台のディーゼルトラック増となっているのが使用量の増加になっているが引き続きアイドリングストップなどの基本の取り組みを重視したい。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	1,212	1,073	1,097	1,521	1,196	1,417	1,394	847	1,703	1,439	1,138	1,307
2023年	1,536	1,487	1,567	1,603	1,408	1,744	1,859	1,331	1,809	1,817	1,847	1,688

一般廃棄物の削減(コピー紙)	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	おおむね順調に推移しているが、まだまだ削減の余地はある。
・書類の簡素化(集約印刷、裏紙利用、PDF保管)	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	○	
・一般ごみの量を把握 ぎゅうぎゅう作戦実施	○	
・EA21会議資料の共有フォルダ化等によるコピー削減	○	



取組紹介欄

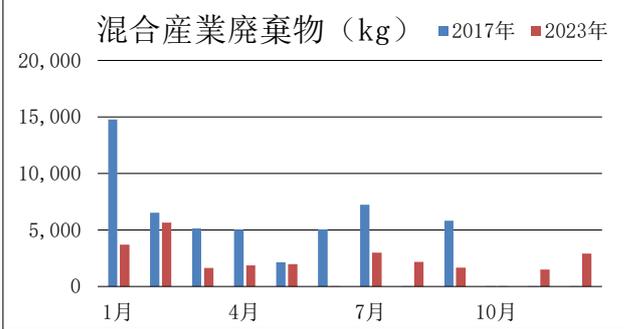


次年度の取組内容

ごみの削減意識は徐々に浸透してはいるが、ごみの分別についてはなかなか守られていないことがあるのでそこを対策していきたい

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	74	87	91	114	90	101	127	83	114	73	99	118
2023年	38	80	61	66	64	67	72	66	59	63	75	78

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	発生量のばらつきは収集運搬回数などによる。基準値に比べて大きく達成できた。今後、産廃の発生場所及び品目に注意して削減をしていきたい。
・材料の歩留まり向上(材料会議)	○	
・加工ミスによるロスの低減確認(ISO会議)	△	
・機械、研削工場タンク内清掃で水溶性廃液の削減	△	
・法定報告	◎	



取組紹介欄



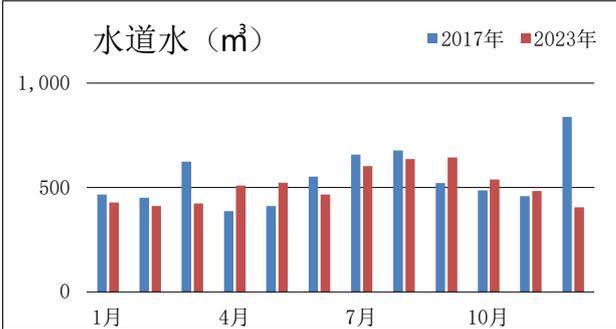
低濃度PCB処分

次年度の取組内容

今年度は低濃度PCB変圧器該当の入替を予定していたが後継機への選定に間に合わなかった。次年度は高圧年次点検にあわせ検討していきたい。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	14,782	6,524	5,133	5,012	2,152	5,072	7,222	1,500	5,822	1,500	3,000	2,300
2023年	3,690	5,650	1,655	1,876	1,970	3	3,013	2,172	1,690	6	1,513	2,913

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	基準年からすると達成できた。食堂の給湯ポンプはこわれて不安定ということからお湯がでるまでの時間が長く、どうしても利用する人は出しっ放しの状態がつづくムダが生じていたが、交換により、今後、その点は解消される。
・節水シールの貼り付けと意識づけ掲示を継続	○	
・機器メンテナンス～定期的な漏水箇所点検	△	



取組紹介欄



各所節水コマに更新

次年度の取組内容

定期的な水漏れはチェックするとともに機械関係の日常点検、老朽化部分に注意を払っていききたい。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	466	452	624	387	412	553	658	677	523	487	459	839
2023年	429	411	424	509	523	466	603	637	644	539	484	405

洗浄剤使用量削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	現在のところ、洗浄剤使用はない。けれど使用再開に備え、安全衛生上の観点からSDS教育を含め取組を継続していく
・製造課使用薬剤、危険物の取り扱い教育の実施	○	
・試験室で使用する薬品管理(既存と新規購入時)	○	
・熱処理製造部購入の化学物質確認システムの運	○	

取組紹介欄

使用薬品取扱い教育講習



次年度の取組内容

環境影響も大きいPRTR物質を含む化学薬品の取扱い、今のところ脱硫剤(少量)のみになるが新規の取扱いになる薬品類についても安全衛生上の観点からもSDSなどから取扱いに注意していきたい。

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価
・改善提案実施活動(改善事務局)	125件	改善提案「年度の目標 計72件/人」の目標については125件の改善があり件数については達成されているが目標達成は一人複数件の提出が未提出をカバーしているおかげもあるが、年一件を達成できていない人は計14名と昨年の11名より増えているのは残念。改善内容については時々感心するような工夫の改善もあつたりする、よく本人に聞いてみると廃棄物を利用したりリサイクル、リユースもあつたりと文面でも排出量削減をアピールしてほしい
・全社5S活動の推進、クリーン作戦の継続実施	○	
・太陽光パネルの運用 発電量監視EA21委員会	○	
・SDGS教育(SDGS、男女共同、人権、健康メンタル)	○	
・「環境改善いいね賞」選考	○	
・各学校訪問へシェアサイクル利用による求人	○	
・個別具体的な活動	○	SDGs教育、5S活動を継続中、上期、下期と年間を通して社内5S改善発表会を開催した。

取組紹介欄

市内中心部では環境負荷が小さく訪問先への周辺移動が便利で乗り捨て可能なシェアサイクルを活用



次年度の取組内容

改善実施活動は件数のみではなく創意工夫のある内容向上を意識しながら提出1件/1人当りで継続して全員参加をめざす

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	契約書、適正な収集運搬、保管基準の遵守、適正な処分の確認、マニフェスト交付及び報告書、
騒音規制法	空調機・空圧機
振動規制法	走行クレーン
大気汚染防止法	排出基準の遵守、排出濃度の測定・記録の保管
省エネ法	第2種特定工場の届出、管理者の選任
温暖化対策推進法	対策計画、実績報告
フロン排出抑制法	簡易点検の実施、定期点検の実施、点検記録の保存
PRTR法	指定化学物質の取扱量把握、SDSの受け取り
労働安全衛生法	SDS義務物質の把握
自動車Nox・PM法	適合する自動車の使用
消防法(危険物)	危険物の管理
PCB廃棄物特別措置法	対象品の届出保管
毒物及び劇物取締法	盗難及び漏えい防止

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されてきていました。

なお、その他については違反、訴訟等は過去3年間ありません。省エネ法に関連した管理基準の作成に対応します。

□緊急事態対応訓練 本社工場

緊急事態の想定: 火災消火と津波を想定した避難訓練		
■実施日: 令和5年6月30日	■実施場所: 会社内	
■参加者: 当日、本社に出勤者全員	■実施内容: ・通報訓練(製造部)、消火訓練、避難訓練	
■評価: 消防署立会指導での訓練として西成消防署員が来訪、今年には通常の訓練に加え、通報訓練については日頃、事務所員で行っている通報訓練を製造部員が通報する立場として訓練を行った。最後に消防署員からはいざというときあわてず落ち着いて行動する為、こうした訓練がいかに大切かを説明頂いた。	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
■実施状況の様子	本社	水消火器での消火
		消防署員と現場からの通報訓練 

□緊急事態対応訓練 東京営業所

緊急事態の想定: 火災消火と災害を想定した避難訓練		
■実施日: 令和5年10月5日	■実施場所: 東京営業所	
■参加者: 東京営業所従業員全員	■実施内容: 初期消火訓練(消火器位置・方法確認) ・大規模火災想定での避難訓練	
■評価: 今回の避難訓練は大田区防災ハザードマップを確認しつつ想定外の火災が起きたと仮定して行った。近くても普段行かない場所を確認する事で様々な対処方法を認識する事が出来た。裏空家から火の手があがった場合の初期消火方法の確認を初めて行った。対応方法の確認が出来て良かった。反省点:事務所内消火器の有効使用期限が過ぎている事が判明した。	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
■実施状況の様子	初期消火訓練	東京営業所から最寄りの多摩川土手まですみやかに移動
		

□緊急事態対応訓練 九州工場

緊急事態の想定: 火災消火と津波を想定した避難訓練		
■実施日: 令和5年11月23日	■実施場所: 九州工場～避難地 二島市民センター	
■参加者: 計5人(瓜生、馬場、和田、清川、坂口、濱田)	■実施内容: ・消火器の使い方、工場に設置した消火器の場所 ・火災時の消防署への通報方法 ・火災時の避難と行動	
■評価: 今回は津波も想定し山側への避難 ・22年度より避難場所を二島市民センターへ変更 ・災害発生時の避難場所への移動と所要時間確認10:20～10:50 ・22年時の避難経路から若干ルート変更を行い時間短縮を行った。	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	
■実施状況の様子	消火器の取扱い等説明後 二島市民センターに集合	
		

□代表者による全体の評価と見直し・指示

二酸化炭素の削減目標について、本社では省エネ法への届け出にもとづく管理標準、点検方法見直しと省エネ改善実施で年初のEA21委員会において、2017年度基準により目標数値をつくり取り組んでいる。九州工場、東京営業所については、単体での基準経営計画目標設定と進捗管理を開始し継続していく

<p>◇自社を取り巻く環境問題の変化</p> <p>(社会的情勢、利害関係者の要求等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キュービクルの低濃度PCBトランス及び稼働中の231号炉の低濃度PCB変圧器の処理期限が2027年3月31日となっていることを認識しており、その他稼働している潜在的なPCB機器処分が今後の課題となります 	<p><見直し・指示></p> <p>◇環境方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部年年度経営計画に引き続き環境関連項目とSDGsへの取り組みを付記し策定内容を着実に実施してください。現状の方針を継続する。
<p>◇環境目標・活動計画の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電力による二酸化炭素2%削減は、基準年からすると達成されている、都市ガスによる二酸化炭素2%削減等の目標は、売上増にともない未達成となりそのコストも政府補助の動向に左右されるきびしいものとなっていますが最終的な基準年総量対比では二酸化炭素削減は達成 	<p>◇環境経営目標・環境経営計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルへの取り組みは熱処理業界全体の課題でもあるが、二酸化炭素の削減目標は、生産量の増減や設備の更新等により、達成状況が左右されるが、2024年度は低温炉用熱処理炉の省エネバーナーの導入検討と昨年導入の省エネバーナーの効率アップ検討、空気比の省エネ改善のさらなる実施で二酸化炭素削減目標ほかは、基準年比2%削減を目標とし、次回に向け電力二酸化炭素排出係数 2015年度基準値を検討します。
<p>◇その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利害関係者からの苦情・要請等 2023年度中は近隣苦情や賞賛もなかった。 3月に日本製鉄株式会社関西製鉄所様より表彰状授与 ・環境上の問題点等 10月18日302号炉にガス漏れがあったので対策を実施した 	<p>◇その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省エネバーナーの更なる高効率化と低温炉への更新を検討してください ・LED照明の範囲拡大を計画検討してください。 ・九州工場は建屋断熱化工事後の空調設備のメンテナンスと省エネにむけたデータ調査を検討してください。 ・利用電力のうち再生可能エネルギーを優先購入しましょう。 ・実施体制はEA21委員会を中心に活動を行いましょう。

【今回の評価結果と今後の経営視点】

- ・世界情勢からの燃料費増やカーボンニュートラルへの取り組みは変わらず業界全体の大きな課題であります。
- ・新しい省エネバーナーや、加工方法の見直しなど提案できることを模索していくことが必要です。
- ・おもわぬ潜在的なPCB含有物がないかは広範囲に注意が必要です。
- ・車台数増からの軽油やガソリンそして廃棄物量は熱処理炉の断熱材更新や5S活動の推進で増加した。
- ・その他は2017年度比では数値上は達成されている結果でした、今回の結果をレビューして、2024年度計画で改善していきます。

これまでの環境活動の紹介

2023年10月31日 西成自衛消防競技大会に(伊藤、鈴木、上村)参加 準優勝 ※1位とは惜しくも1秒差



競技の様子

